

PENTAX®

ESPIO

QUARTZ DATE

使用説明書



PANORAMA
パノラマ

このたびは、ペンタックスESPIO（エスピオ）をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。「エスピオ」は、35ミリ広角から70ミリ望遠まで自由にレンズが変化でき、フィルム感度セット、巻き上げ、巻き戻し、ピント合わせ、露出など全てを自動化しておりますので、どなたにも楽しく簡単にお使いいただける小型軽量のコンパクトカメラです。パノラマアダプターを使えば、簡単にパノラマ撮影もご利用いただけます。さらに、「日付」または「時刻」を撮影時に写し込むこともできます。ご使用前にこの使用説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 説明文中の [] 内の注意事項には、特に気を付けてお読みください。
- 本文中の写真、イラストは、実際の製品と異なる場合があります。

※各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただけます。

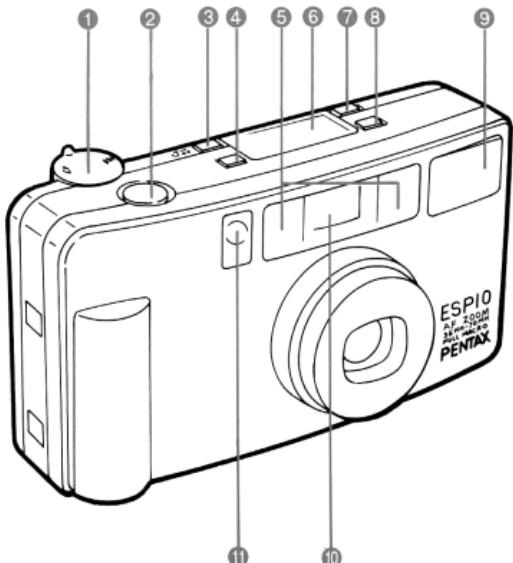
記号について

操作の方向	←
自動的に動きます	↔↔↔↔
注目してください	○
点灯します	★
点滅します	◆
正しい	○
間違い	✗



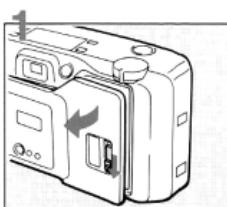
各部の名称を開いて見ながらお使いください。

各部の名称

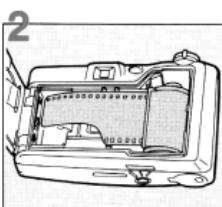


- ① ズームレバー
- ② シャッターボタン
- ③ セルフ／撮影モードボタン
- ④ 遠景ボタン
- ⑤ 測距窓
- ⑥ 表示パネル
- ⑦ ストロボ／バルブボタン
- ⑧ 赤目軽減ボタン
- ⑨ ストロボ発光部
- ⑩ ファインダー窓
- ⑪ 受光窓

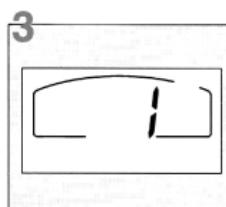
使い方は簡単です。 [通常の撮影手順]



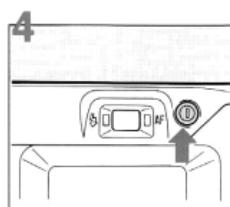
裏ぶたを開けます。
[8ページ]



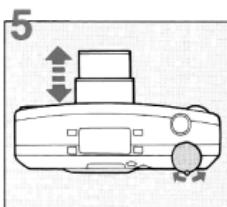
フィルムを入れ、裏ぶたを閉じます。
[9ページ]



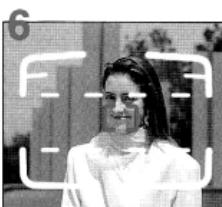
自動的に1コマ目まで巻き上がります。
[9ページ]



電源スイッチを押して電源をONにします。
[4ページ]



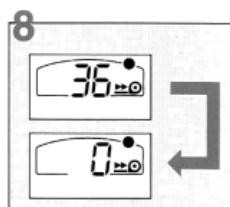
ファインダーをのぞき、ズームレバーを操作して構図を決めます。
[6ページ]



写したいものにフォーカスフレームを合わせます。
[12ページ]



シャッターボタンを押して撮影です。暗い所では自動的にストロボが光ります。
[13ページ]



フィルムが終わると自動的に巻き戻します。
[16ページ]

注意事項

- カメラ内部には、高電圧部分があります。危険ですから決して分解しないでください。
- 強い震動やショックを与えないでください。
- ズームレンズに無理な力を加えないでください。
- 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。無理に開けないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを髪や手でふさがないでください。
- 高温多湿な所に保管したり、長時間放置しないでください。
- ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラに入ると故障の原因になります。

電池について

- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。交換するときは、十一の向きに注意して正しく入れてください。
- 電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破損・発火の恐れがあります。
- 旅行や野外撮影などには、予備電池を用意しておくと安心です。
- 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量不足になることがありますが、常温に戻れば使用できます。

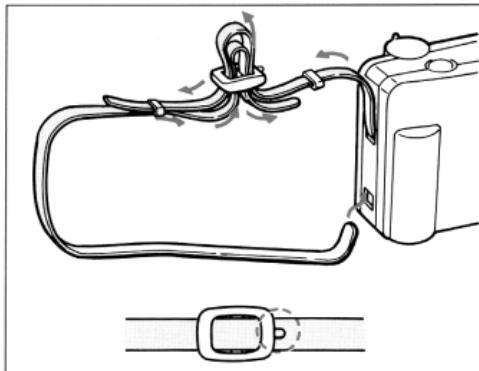
目次

注意事項、電池について	1
撮影前の準備をしましょう	
1. ストラップ・ソフトケース	3
2. 電源スイッチと電池の確認をしましょう	4
3. カメラの構え方	5
4. ズーミング	6
フィルムを入れて撮影をしましょう	
1. 使用フィルム	7
2. フィルムを入れましょう	8
3. ファインダー内表示と撮影距離	10
4. ランプ表示	11
5. 通常の撮影	11
6. 撮影をしましょう	12
7. フォーカスロック撮影	14
8. フィルムを取り出しましょう	16
いろいろな撮影をしましょう	
いろいろな機能の選び方	18
日中シンクロ撮影	19
低速シャッター撮影	20
低速シンクロ撮影	20
逆光補正	21
バルブ撮影	22
バルブシンクロ撮影	22
セルフタイマー撮影	23
ダブルセルフタイマー撮影	23
オートワイドセルフタイマー撮影	24
連続撮影	25
多重露出撮影	26
インターバル撮影	27
遠景撮影	28
パノラマ撮影	28
データの使い方	30
電池の消耗警告	32
電池の交換	33
取り扱い上の注意	34
こんなときは	36
表示パネルについて	38
主な仕様	40
アフターサービスについて	43

撮影前の準備をしましょう



ケースに入れるときは、電源をOFFにしてください。（電源スイッチについては、4ページをご覧ください。）

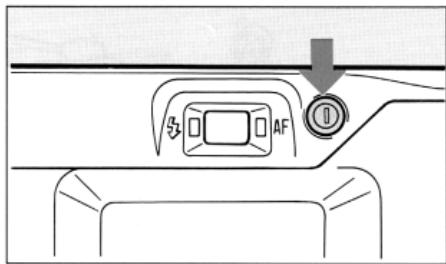


ストラップは図のよう取り付けます。ストラップ留め具の突起はクォーツデータの修正ボタンを押すときのピン（突起）です。

- 歩行中にカメラが揺れないように、腰より上に来る長さに調節しましょう。

3

2. 電源スイッチと電池の確認をしましょう

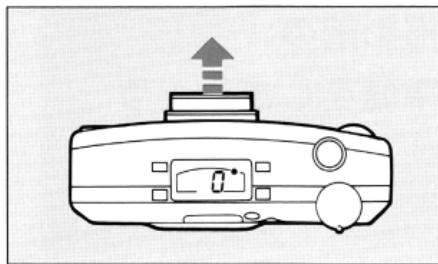


電源スイッチ

スイッチを押すと電源が入り（電源ON）、レンズが少し前に出てレンズカバーが開きます。
もう一度押すと電源が切れます（電源OFF）。
使用しないときは、必ずOFFにしてください。

3Vリチウム電池（CR123A）を1本使用します。
カメラ本体とデータ機構に共用しますので、電池消耗時の交換以外は、電池を抜かないでください。

- 電源のON・OFFによってレンズカバーが自動的に開閉します。むりにカバーを開けないでください。

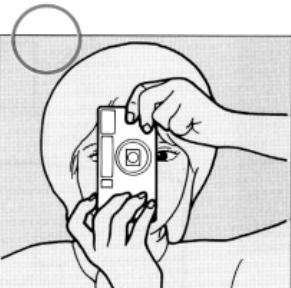
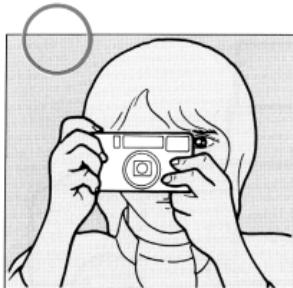


電池の確認（チェック）

電源をONにしたとき、レンズが少し前に出てレンズカバーが開けば撮影できます。
[表示パネルに■マークが出ているときは、32ページをご覧ください。]

※電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的に電源OFFになります。
30分以内に電源をONにすれば電源OFF直前の設定に自動復帰します。

3. カメラの構え方

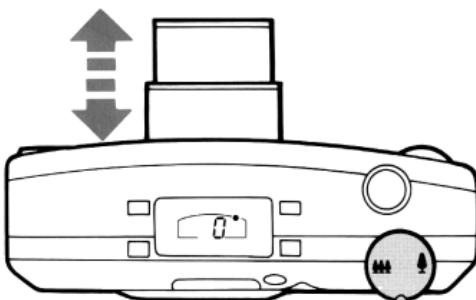


撮影するときは、カメラを両手でしっかりと持ち、カメラが動かないようにして、シャッターボタンを静かに押しましょう。（強く押すとカメラが動いて、ぶれやすくなります。）木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させるのも良い方法です。カメラを縦位置に構えてストロボ撮影するときは、ストロボが上になるようにしましょう。

- ズームレンズは、ズーミングによって前後に移動しますから持たないでください。
- カメラ前面の測距窓・レンズ・受光窓・ストロボ発光部などを、髪や手でふさがないでください。

5

4. ズーミング



ズームレバーを 側に回すと、遠くのものを大きく写せる 70mm 望遠側へ、 側に回すと広い範囲を写せる 35mm 広角側へ動きます。ファインダーを見ながら、好みの構図になったところで止めて撮影してください。

6

1. 使用フィルム

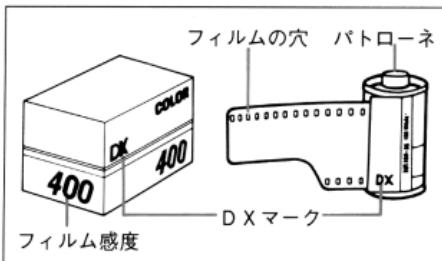
フィルムを入れて撮影しましょう

フィルムは一通り説明書を読んでカメラ操作に慣れてから、入れましょう。

※フィルムを入れるときは、パッケージやパトローネの「DX」を確認の上お使いください。

※DXでないフィルムは、使用できません。

- ISO1000以上の高感度DXフィルムは室内や暗い所での撮影にご使用ください。



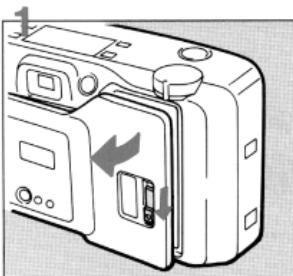
フィルム感度自動セット

このカメラは、フィルム感度を自動的にセットできるDXフィルム専用です。「DX」マークの付いているフィルムをご使用ください。

(ISO25~3200までのフィルムが使えます。)

7

2. フィルムを入れましょう [電源をOFFにします。]



1. 裏ぶたを開ける

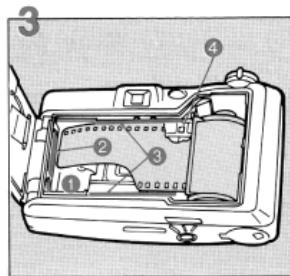
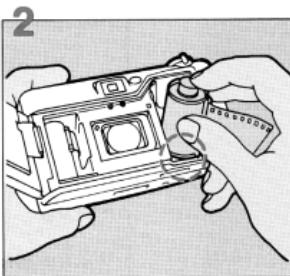
図のように、裏ぶた開放レバーを矢印方向に押し下げて、裏ぶたを開けます。

2. フィルムパトローネを入れる

パトローネの下側を先に入れると簡単に入ります。

3. フィルムの先端を合わせます

フィルムを少し引き出して①のローラーの上に乗せ、②のフィルム先端マークに合わせます。



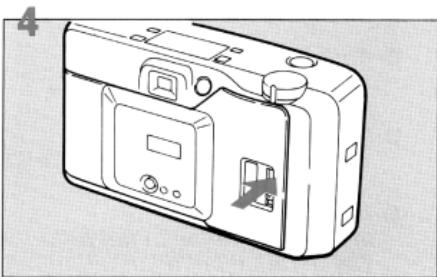
- レンズに指が触れないように十分ご注意ください。
- フィルムが①のガイドレールの間に入っていることを必ず確認してください。
- フィルム検知部③にゴミなどが付着するとフィルムが正しく巻き上げられません。
- フィルムを入れるときに、パノラマか一般撮影かを必ず選んでください。



×フィルムのたるみあり



○フィルムのたるみなし



4. 裏ぶたを閉じる

裏ぶたを閉じると自動的にフィルムが巻き上げられ、1枚目まで進みます。

※フィルムが入っていないなくても、裏ぶたを閉じるとモーターは約1~2秒間回ります。

←左図のように、フィルムはたるみがないように入れてください。

- フィルムの先端が長く出すぎているときは、フィルムパトローネに少し押し戻します。
- フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。



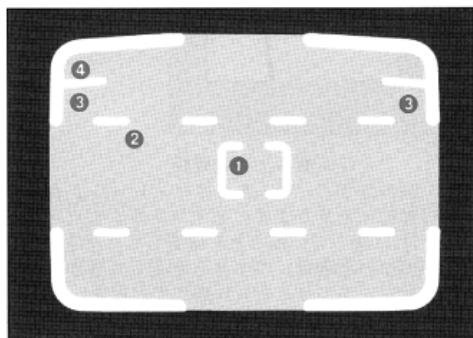
5. フィルム巻き上げの確認

上図のように、フィルムカウンターに [1] が出て自動的に止まります。必ずフィルムカウンターが [1] になっていることを確認してください。[1] が出ないときは、フィルムが正しく巻かれていません。フィルムを入れ直してください。

フィルムが正しく入っていないと、表示パネルに [E] が点滅して知らせます。

※フィルムが入っているとき、フィルムカウンターは電源をOFFにしても表示されます。

3. ファインダー内表示と撮影距離 [電源をONにします]



ファインダー内の表示を覚えましょう。

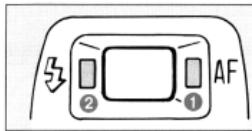
- ① オートフォーカスフレーム
ピントを合わせたいものに [] マーク全面を合わせます。
- ② パノラマ視野枠
パノラマ撮影のとき、この枠内に写したいものを入れてください。
- ③ 近距離視野補正枠
撮影する距離が0.6m~1m付近では、近距離視野補正枠内に写したいものを入れてください。
- ④ 視野枠
写したいものをこの枠内に入れて撮影してください。

撮影距離

- 撮影は0.6m~∞（無限遠）の範囲です。
- 0.6mより近い距離ではピントが合いません。

4. ランプ表示

5. 通常の撮影



シャッターボタンを少し押して図の①②のランプ表示を確認して撮影しましょう。

①緑ランプ 点灯（撮影可能・フォーカスロック）

点滅（近距離警告）

②赤ランプ 点灯（ストロボ発光）

点滅（ストロボ充電中）

※緑ランプ点滅は、撮影距離が近すぎることを知らせます。撮影するときは、必ず緑ランプ点灯を確認してください。

※撮影距離が極端に近いとき（30cm程度）は、緑ランプが点灯することがあります。



電源をONになると通常の撮影モードにセットされます。この撮影モードは暗い所で自動的に

ストロボが発光します。（表示は枚数表示のみ）

- 他の表示のときは、電源をOFFにしてからONにすると通常の撮影モードに戻ります。

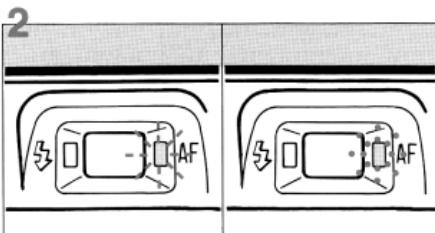
※ストロボ自動発光時のシャッタースピードは約1/40秒です。（ISO100のフィルム使用時）

6. 撮影しましょう [撮影距離は0.6m～∞の範囲です。]



1. 構図を決める

ズームレバーを使って構図を決め、画面中央の【C】オートフォーカスフレームを写したいものに合わせます。



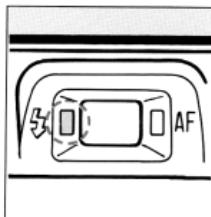
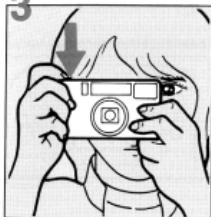
2. ランプ表示の確認

シャッターボタンを少し押し、ピントが合うと緑ランプが点灯します。

0.6mより近い距離では緑ランプが点滅して警告します。シャッターボタンを押し直してランプが点灯する位置まで離れてください。

- 赤ランプが点灯した場合は、ストロボ撮影になります。「ストロボ撮影できる距離範囲」を確認してから撮影してください。[13ページ参照]

3



3. 撮影

さらにシャッターボタンを押すと、撮影できます。（撮影後フィルムは自動的に1枚巻き上げられます。）

※シャッターを切ると同時にセルフタイマーランプが一瞬点灯して撮影を知らせます。

※一度ピントを合わせてから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンを押し直してください。

※ズーミング中は、シャッターが切れません。

ストロボ自動発光

暗い所では、ストロボが自動発光します。赤ランプの点灯は、ストロボが発光することを知らせます。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中でシャッターが切れませんので、赤ランプの点灯を確認してから撮影してください。

「エスピオ」には、ストロボ2度発光による赤目軽減機能が付いています。詳しくは18ページをご覧ください。

ストロボ撮影できる距離 [ネガカラーフィルム使用時]

レンズ	ISO	100	200	400
広角 (35mm) ()		0.6~4.3m	0.6~6.0m	0.6~8.6m
望遠 (70mm) ()		0.6~2.7m	0.6~3.8m	0.6~5.4m

7. フォーカスロック撮影



こんなときは注意しましょう！

このまま撮影すると、写真のように人物にはピントが合わず、後ろに合ってしまいます。

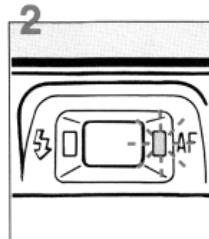
ピントを合わせたいものがファインダー中央の【C】から外れているときは、右の操作説明に従ってフォーカスロック撮影をしましょう。

（フォーカスロックとは、撮影前にピントを合わせて、それを一時的に固定することです。）

1



2



1. 【C】オートフォーカスフレームを合わせるピントを合わせたいものに【C】を合わせます。

人物の顔などピントを合わせたいものが小さく見えるときは、胸などに合わせてください。

2. フォーカスロック [緑ランプ点灯]

シャッターボタンを少し押すとファインダー右横の緑ランプが点灯して、ピントと露出が固定されます。

3



3. 構図に合わせて撮影します

シャッターボタンを少し押したまま写したい構図にして、シャッターを切ります。

※フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカス機構は高精度のものですが万能ではありません。次のような被写体ではピントが合わないことがあります。

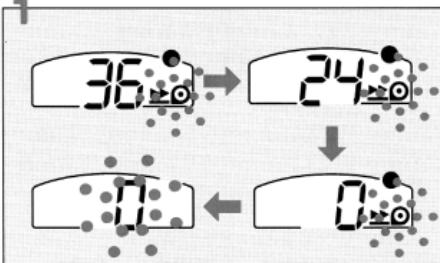
このような場合は、被写体とほぼ同じ距離にあるものに「フォーカスロック」してから撮影してください。

1. 黒い髪の毛など、光を反射しにくいもの。
2. 金網・格子など、面積が小さいもの。
3. ネオンや螢光灯・木もれ日などの点滅光源や、それによって強く照明されているものの。
4. ガラスや鏡、車のボディーなど、光沢がある物で反射するもの。
5. 速いスピードで動いているもの。
6. 噴水・水面・炎・花火など形のはっきりしないものや霧の中の被写体。

15

8. フィルムを取り出しましょう [フィルムは直射日光が当らない所で取り出しましょう。]

1



1. フィルムの巻き戻し

フィルムの最後まで撮り終わると、自動的に巻き戻しが始まります。

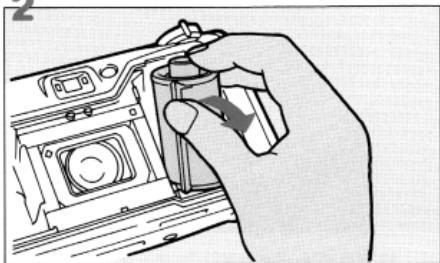
巻き戻しが終わるとモーターは止まり、図のように **0** が点滅して知らせます。

※巻き戻し時間は24枚撮りで約20秒です。

※巻き戻し中は、撮影枚数を逆算表示します。

※巻き戻し完了時、光もれを防ぐためフィルムは、パトローネに巻き込まれます。

2

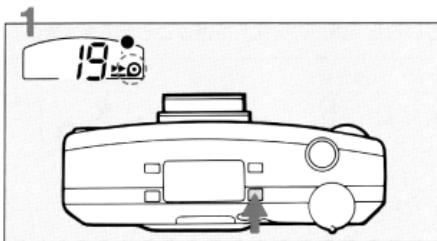


2. フィルムの取り出し

裏ぶたを開けて、図のようにフィルムを取り出します。

● フィルムの規定枚数を超えた最後のコマは、現像処理でカットされることがあります。

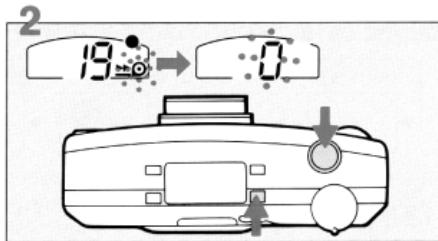
● 巻き戻し中は裏ぶたを開けないでください。



1 フィルムの途中巻き戻し

フィルムを途中で取り出したいときは、次の操作をしてください。

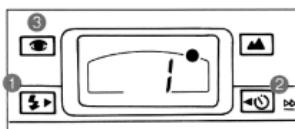
- 電源をONにして、セルフ／撮影モードボタンを3秒以上押し続けると、表示パネルに マークが表れて、途中巻き戻しモードになります。このときに、 表示が点滅します。



- セルフ／撮影モードボタンを押したまま、シャッターボタンを押すと、巻き戻しが始まります。巻き戻しが終わるとモーターは止まり が点滅して知らせます。

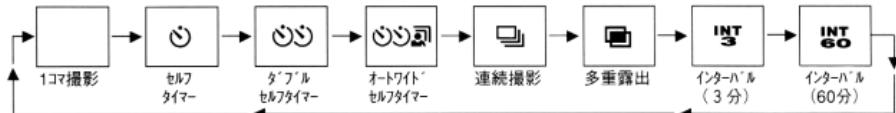
いろいろな撮影をしましょう [いろいろな機能の選び方]

露出方式 [①] ストロボ／バルブボタンを押すと、いろいろな「露出の方式」を選ぶことができます。]



- ①②のボタンは、1回ずつ押して合わせます。
- 通常の撮影では、左図のように「オート撮影で1コマ撮影」に合わせてご使用ください。電源スイッチをOFFからONになるとこのモードになります。
- 露出方式、撮影方式がどのモードでもシャッターを一度切った後に①、②のボタンを押すと「オート撮影」および「1コマ撮影」にそれぞれ戻ります。
- ③の赤目軽減ボタン を押して表示パネルに を表示させておくと、ストロボが2度発光をして目が赤く写るのを目立たなくすることができます。もう一度押すと解除されます。

撮影方式 [②] セルフ／撮影モードボタンを押すと、いろいろな「撮影の方式」を選ぶことができます。]



日中シンクロ撮影 [強制発光]



ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに $\blacksquare\downarrow$ 表示を出します。明るい所でも暗い所でも

ストロボ撮影になります。

逆光などで被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると、陰の取れたきれいな写真が撮れます。また、常時ストロボ撮影を行いたいときにもご利用ください。

- シャッターボタンを少し押して、ファインダー左横の赤ランプ点灯を確認してから撮影してください。赤ランプの点滅は、ストロボの充電中です。
- 日中シンクロの場合にも、「ストロボ撮影できる距離の範囲内」で撮影してください。 [13ページ参照]



ストロボなし



ストロボ使用　日中シンクロ

19

低速シャッター撮影



ストロボOFF
[発光停止]
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに $\blacksquare\oplus$ 表示を

出して撮影します。暗い所でもストロボを発光させないで、約1/5秒までの低速シャッターで撮影できます。ストロボが使えない場所（劇場、美術館など）での撮影にご利用ください。また、室内の照明を利用して雰囲気のあるソフトな写真も楽しめます。

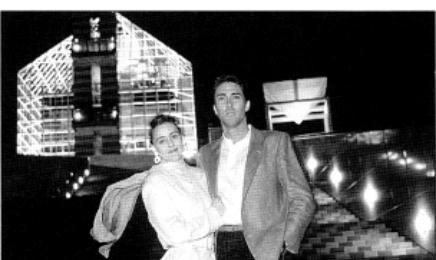
- 暗い所ではシャッター速度が遅くなるので、カメラぶれを防ぐために三脚などをご使用ください。



低速シンクロ撮影 [ストロボ使用]

ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに $\blacksquare\blacksquare$ 表示を出すと、低速シンクロ撮影になります。

暗い背景で人物撮影をするとき、人物にはストロボ光があり、背景も遅いシャッタースピードでバランス良く写せます。



20

逆光補正



背景に明るい空などが多く入るような構図〔逆光や窓ぎわなど〕で人物撮影のときなど、明るい背景に露出が合うために人物が暗く〔露出不足〕なることがあります。このようなときに、自然光で露出を補正すると人物も画面全体も明るく写ります。

風景写真など、日中シンクロ撮影ではストロボ光が届かないときなどにご利用ください。

ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに**Ⓐ B**表示を出します。

- 薄暗い場所で逆光補正を使うと、シャッター速度が遅くなりカメラぶれしやすくなるので、三脚をご利用ください。



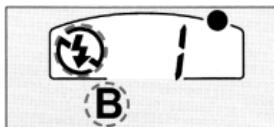
逆光補正



逆光補正なし

21

バルブ撮影・バルブシンクロ撮影



バルブ撮影
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに**Ⓐ B**表示を出して撮影します。

シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。花火や夜景の撮影にご利用いただけます。撮影時は、カメラぶれを防ぐため三脚などに固定してください。



バルブシンクロ撮影
ストロボ／バルブボタンを押し、表示パネルに**Ⓑ B**表示を出して撮影します。バルブシンクロではストロボが発光しますので、夜景などをバックにした人物撮影ができます。



バルブ撮影
ISO 100で約3秒間の撮影

セルフタイマー撮影



セルフタイマー撮影

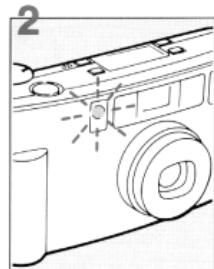
撮影者も入って記念撮影をするときなどにご利用ください。撮影時は三脚などを使用してください。セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルに 表示を出します。



ダブルセルフタイマー撮影

記念撮影などで、ポーズを変えた写真が2枚続けて写せます。セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルに 表示を出します。

1コマ目のシャッターが切れた後、約5秒後に2コマ目のシャッターが切れます。なお、ピントは1コマ目で固定されます。



1. 写したいものにピントを合わせてから、さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後にシャッターが切れます。
2. セルフタイマーの作動中は、表示パネルの の点滅とセルフタイマーランプの点灯で知らせます。シャッターが切れる約3秒前から、ランプは点滅に変わります。

オートワイドセルフタイマー撮影



セルフタイマー撮影で、写る範囲を変えた写真を2枚続けて写せます。

セルフ／撮影モードボタンを押して 表示を出します。

ズームレバーで写す範囲を決めてから、写したいものにピントを合わせます。さらにシャッターボタンを押すと、約10秒後に1コマ目のシャッターが切れた後、レンズが自動的に広角（ワイド）にセットされ、約5秒後に2コマ目のシャッターが切れます。

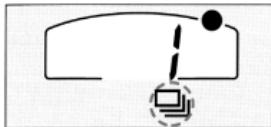
なお、ピントは1コマ目で固定されます。



セルフタイマー撮影に関する共通の注意
ダブルセルフタイマー・オートワイドセルフタイマー撮影も同様です。

- カメラ前面に立ってタイマーをスタートさせると、写したいものにピントが合わなくなることがありますのでご注意ください。
- タイマーをスタートさせた後に中止したいときは、電源スイッチを押してください。（この場合は電源OFFになります。）
- ストロボ撮影のときは、ストロボの充電完了（赤ランプの点灯）を確認してから、セルフタイマーを作動させてください。
電池消耗のときには、途中で撮影できなくなることがあります。このときは、電池を交換してください。
- セルフタイマーを使ってバルブ撮影をした場合、シャッター速度は約1/2秒になります。

連続撮影



セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルに 表示を出します。
シャッター ボタンを押し続けると約1.3秒毎に1コマの連続撮影ができます。

- 連続撮影中は、ピント合わせが1コマ毎に行われますので、 を写したいものに合わせながら撮影してください。
- ストロボ撮影のときは、ストロボ充電完了【赤ランプ点灯】後、次の撮影ができます。

25

多重露出撮影



同一のフィルム画面上に重ねて撮影することができます。

アイデア次第でおもしろい写真が作れます。



撮影手順

1. セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルに 表示を出します。
2. シャッター ボタンを押して1回目の撮影します。【フィルムは巻き上げられません。】表示パネルの枚数表示と が点滅して、多重露出中であることを知らせます。
3. 構図を決めてから、シャッター ボタンを押して2回目の撮影をします。【撮影が終わるとフィルムが巻き上げられ「1コマ撮影」に戻ります。】

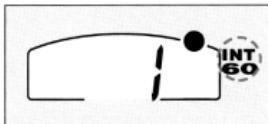
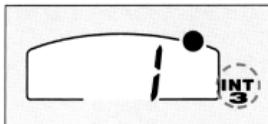
※ 多重露出を2回以上行うときは、「2.」の操作の後に、セルフ／撮影モードボタンを押して表示パネルの 表示を点灯にしてから再び撮影してください。

※ データの写し込みは、「3.」の操作で行われます。

※ 3回以上の多重露出を行うと、全体に明るい露出オーバーの写真になりますので、2回までの多重露出をお勧めします。

※ 多重露出は、背景が黒いもの【夜景など】に人物を重ねて撮影するなどの方法があります。

インターバル撮影



インターバル撮影では、カメラが一定の時間間隔で自動的に撮影を行いますので、無人で動物や植物の生態過程などの観察写真を作るときなどに利用すると便利です。

- 撮影するときは、三脚をご使用ください。
- ピントは、1コマ目で固定されます。シャッターが切れる3秒前からは、セルフタイマーランプが点滅します。
- 作動中は、表示パネルの「INT」あるいは「INT 60」が点滅して知らせます。撮影間隔の残り時間も表示します。
- 作動中に中止したいときは、電源スイッチを押してください。[この場合は電源はOFFにはなりません。]
- 撮影枚数は、シャッターボタンを押すと確認できます。

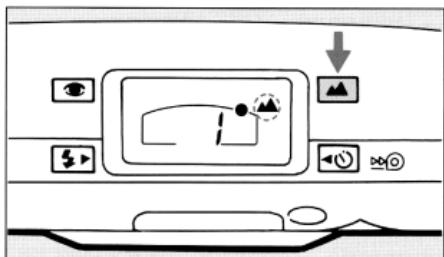
1. セルフ／撮影モードボタンを押して、表示パネルに「INT 3」あるいは「INT 60」を出します。

※「INT 3」は、撮影間隔が3分毎、「INT 60」は、撮影間隔が60分毎です。

2. シャッターボタンを押すと、約3秒後に1コマ目のシャッターが切れ、後は設定間隔でシャッターが切れ、フィルムの最後まで撮影されます。

27

遠景撮影



遠い風景やガラス越しの風景などを撮影するときにご利用ください。シャープな風景写真が撮れます。

遠景ボタンを押し、表示パネルに「▲」表示を出します。解除するときはもう一度押してください。

※撮影が行われると、遠景撮影モードは解除されます。ただし、連続撮影モードでは、シャッターを押している間は解除されません。

※オート撮影モードではストロボは発光しません。

パノラマ撮影

「エスピオ」では、パノラマアダプターを取り付けるだけで簡単にパノラマ撮影ができます。パノラマ撮影では横長（フィルム上で13×36mm）のダイナミックな写真が撮れます。

※プリントご依頼の時は、「パノラマ」とご指定ください。また、パノラマシールをフィルム（パトローネ）に貼っておくと安心です。

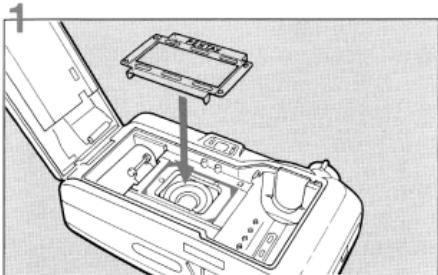
※パノラマ撮影以外のときは、パノラマアダプターを外し、ケースに保管しておいてください。また、ケースをビニールのパノラマアダプター ホルダーに入れて、ストラップに通しておこうと、携帯に便利です。

※データは画面内には写し込まれません。

●パノラマアダプターの取り付けは、必ずフィルムを入れる前に行ってください。

●一度パノラマ撮影を始めると、フィルムの最後までパノラマ撮影しかできなくなりますのでご注意ください。

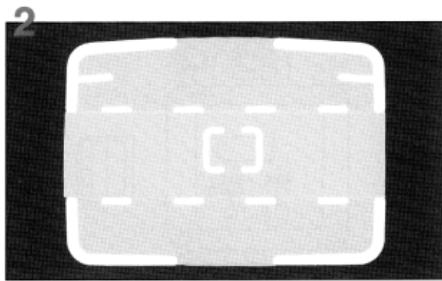
●パノラマアダプターは、非常に薄いですから曲げないように注意してください。



1. パノラマアダプターを取り付けます

図のように、パノラマアダプターの突起部分が下になるようにして、フレーム内に取り付けます。この場合に、「PENTAX」の文字が見えれば向きはどちらでも構いません。

- パノラマアダプターの着脱時は、レンズ部分に触らないようにご注意ください。電源を入れた状態で行うと比較的簡単にできます。
- パノラマアダプターは落とし込むだけですから、カメラを立てると落下します。フィルムを入れて、裏ぶたを閉めるまではカメラを水平に行ってください。

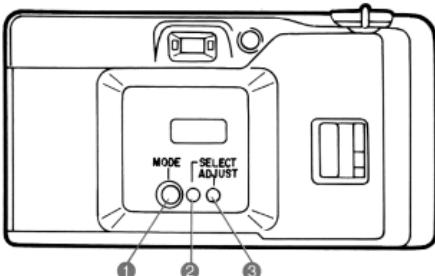


2. 撮影します

ファインダー内のパノラマ視野枠内に写したいものを入れて撮影してください。

- 1mより近距離で、パノラマ撮影をする場合は、一般撮影の時と同様に、写る範囲が多少下に移動しますので、ご注意ください。

データの使い方

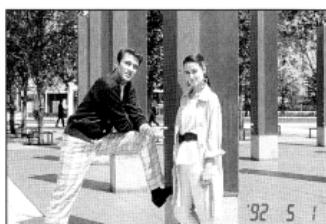


- | | | |
|----------|-------|----------|
| ① MODE | モード | ：切り替えボタン |
| ② SELECT | セレクト | ：選択ボタン |
| ③ ADJUST | アジャスト | ：調整ボタン |

「エスピオ」クォーツデータは、2019年までのオートカレンダー機能を持っています。日付や時刻の表示は、製品出荷時には正しくセットしてあります。

モードの切り替え

- の MODE ボタンを爪で押して、希望の表示を出します。
※ 日付や時刻の表示を写しこみたくない場合は、-----に合わせます。
※ データ表示窓の M は「月」の位置を示しています。
※ SELECT および ADJUST ボタンを押すときは、ストラップ留め具のピンをご使用ください。



※ この写真の数字はハメコミ合成です。

日付や時刻の修正

1. ②の[SELECT]ボタンを押して修正したい数値を点滅させます。
 2. ③の[ADJUST]ボタンは、②の[SELECT]ボタンで指定した修正したい数値（点滅させた）を変更するときに押します。1回押すごとに数値が1つ進み、押し続けると約2~3秒後からは早送りされます。
 3. 修正後は、②の[SELECT]ボタンを押して、**—**写し込み可能マークを表示させます。
- ※修正中（点滅表示中）は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
- ※日付や時刻は、次のように表示されます。
- 年=87~19 [1987~2019]
月=1~12 日=1~31
時=0~23 分=00~59
- ※ [:] 秒時刻は、実際の数値表示はありませんが、②の[SELECT]ボタンで点滅させ、③の[ADJUST]ボタンを時報などに合わせて押すと0秒にセットされます。

データの写し込みについて

写し込みたい日付や時刻を選んでデータ表示窓に出しておけば、シャッターを切るごとに写し込まれます。

※「年月日」と「日時分」を同時に写し込むことはできません。

※シャッターを切るとデータ表示窓の**—**が点滅し、写し込みが行われたことを示します。

- 日付や時刻が写る部分に白・黄色などの明るい被写体が来ると、日付や時刻が見えにくくなります。日付や時刻が写る部分には明るいものが来ないようにしましょう。

31

電池の消耗警告



電池が消耗していくと表示パネルに図の**■**マークが出て警告します。早めに新しい電池と交換してください。**■**が点滅に変わると、シャッターが切れなくなります。

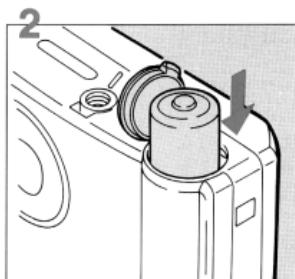
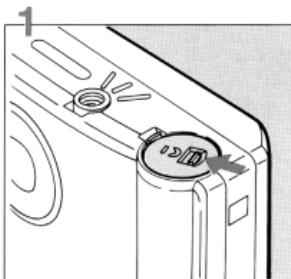
撮影できるフィルム本数 [24枚撮り]

ストロボの使用率を50%にした場合 約15本
[CR123A電池・当社試験条件による]

電池を交換するときの注意

1. 電池の交換は、電源をOFFにしてフィルムが入っていないときに行ってください。
2. フィルムが入っている状態で電池を交換すると、カメラが初期状態に戻り、フィルムを約1~2コマ分空送りして撮影枚数が**1**になります。
(フィルムの終わり近くで電池を交換した場合、カメラがフィルムを検知できずに表示パネルに撮影枚数が出ないことがあります。フィルムを途中巻き戻し操作で巻き戻してから取り出してください。)
3. 電池はデータ用電源と共用です。交換後はデータの表示窓を確認してください。
[修正は30~31ページをご覧ください。]

電池の交換 [電源をOFFにします。]



1. 電池ぶたを開けます

指先で電池ぶたのロックを矢印方向に引き、電池ぶたを開けます。

2. 電池を入れます

電池ぶたの+表示に合わせて、リチウム電池を正しく入れます。

使用電池 [3Vリチウム電池1本]

CR123A [パナソニック製]

DL123A [デュラセル製]

3. 電池ぶたを閉めます

電池ぶたを矢印方向に押します。

電池ぶたが正しくロックされると、「カチッ」と音がします。

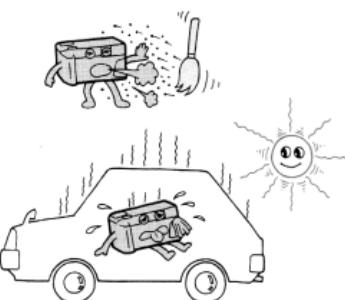
- 電池が正しく入っている場合は、電池ぶたを閉めたときズームレンズとモーターが少し動きます。

33

取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意ください。

- 強い振動や衝撃を与えると、圧力などを加えないように注意が必要です。オートバイ・車・船などの振動は、直接カメラに伝わらないようクッションなどを入れて保護するようにしてください。
- レンズやファインダー窓のホコリはプロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
- カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室などを避けてください。また、カビ防止のためケースから出して、風通しの良い涼しい所に保管してください。
- 高温多湿の所に保管したり、長時間放置することは避けたままでください。車の中は高温になることがありますのでご注意ください。
- 寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと（または逆の場合も）、カメラの内外に水滴を生じます。このようなときは、カメラをバッグやビニール袋などに入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなつてから、取り出してください。



- カメラの使用温度範囲は-10°C~50°Cです。
- 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電気接点や各部の接点に電池の液もれや手油などによる汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。汚れやゴミを取り除いても不具合の場合は当社の各サービス窓口で点検を受けてください。

- ズームレンズには、無理な力を加えないでください。また、レンズを下向きにしてカメラを置かないでください。
- サービスサイズのカラープリントでは、画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を残しておくと安全です。
- 高性能を保つため、1~2年毎に定期点検をお勧め致します。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には点検や試し撮りをされるようにしてください。
- 業務用または過酷な条件での使用には、お勧めできません。

ストロボ撮影の赤目現象

ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くにしてレンズを広角側で撮影すると、発生しにくくなります。

35

こんなときは？[詳しくは、各ページをご覧ください。]

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください。

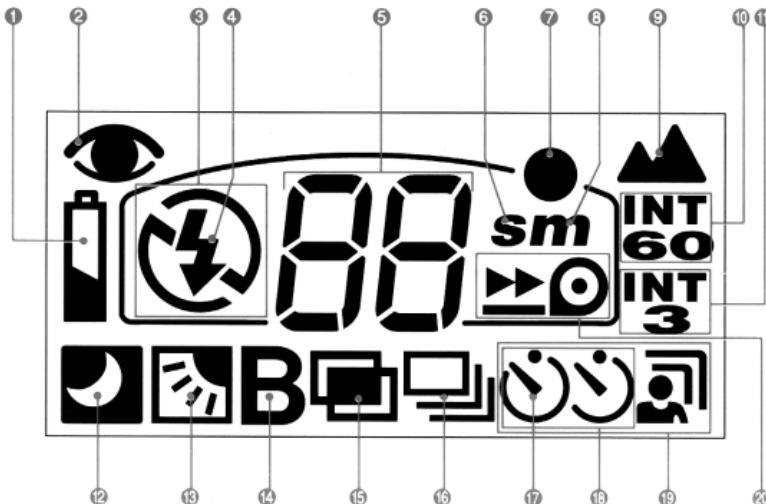
症状	原因・対処
症状1：シャッターが切れない。	原因・対処1： <ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチがOFFになってしまいませんか、スイッチをONにしてください。[4ページ] ● 電池は入っていますか。電池が消耗していませんか。[33ページ] ● 表示窓に [0] が点滅している場合は、フィルムが終了しています。新しいフィルムと交換してください。[16ページ] ● ズームレバーを操作していませんか、ズームレバーから指を離して撮影してください。[13ページ]
症状2：写真の出来が良くない。	原因・対処2： <ul style="list-style-type: none"> ● ピントを合わせたいものにAFフレーム [] を合わせて撮影してください。[12ページ] ● 指や髪などで測距窓を覆わないようにして、シャッターボタンは静かに押してください。[5ページ] ● 撮影距離が0.6mより近すぎるとピントが合わず、きれいな写真が撮れません。[10ページ]
症状3：ズームレンズが勝手に収納された。 [電源がひとりでに切れた]	原因・対処3： <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ONのまま放置した場合は、放置後約3分間たつと、自動的にOFFになります。[4ページ]

症状	原因・対処				
症状4：表示パネルに[H]や[U]等の表示が出る。	原因・対処4： ●ズームレバーなどを動かしてみてください。表示が消えればそのままご使用になれます。度々出る場合には故障の可能性があります。				
ISO100、200、400以外のフィルムを使用したときのストロボ撮影距離範囲					
レンズ ISO	25	50	1000	1600	3200
35mm (▲▲▲)	0.6~2.1m	0.6~3.0m	1.1*~13m	1.4*~16m	2.0*~22m
70mm (▲)	0.6~1.3m	0.6~1.9m	0.6~8.5m	0.9*~10m	1.3*~15m

* 近距離では露出オーバーになることがあります。

37

表示パネルについて



各部の名称

- ①電池消耗警告
- ②赤目軽減
- ③ストロボOFF
- ④ストロボON
- ⑤フィルムカウンター／インターバルタイマー
- ⑥秒
- ⑦シャッターボタン
- ⑧分
- ⑨遠景
- ⑩インターバル（60分）
- ⑪インターバル（3分）
- ⑫低速シャッター
- ⑬逆光補正
- ⑭バルブ
- ⑮多重露出

⑯連続

- ⑰セルフタイマー
- ⑱ダブルセルフタイマー
- ⑲オートワイドセルフタイマー
- ⑳フィルム巻き戻し

液晶表示（LCD）について

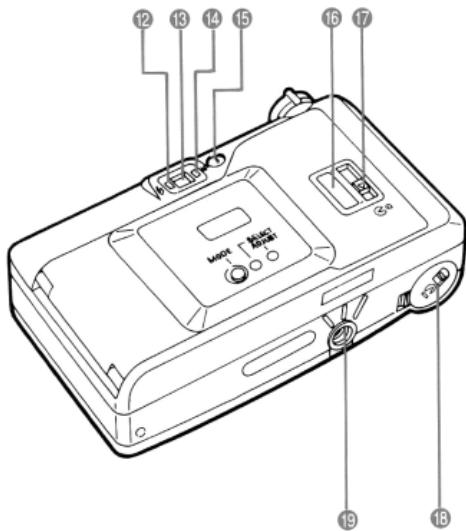
- 約60°Cの高温では液晶表示が黒くなることがあります、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の応答速度が遅くなることがあります。これは液晶の性質によるもので故障ではありません。

主な仕様

- 形式ズームレンズ内蔵フルオート35mmレンズシャッターカメラ（データ付き）
使用フィルム35mmDXフィルム専用（135パトローネ入り） ISO25~3200自動感度セット（1EVステップ） DX以外=ISO25固定
画面サイズ24×36mm（パノラマアダプター使用時は13×36mm）
フィルム入れオートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ
巻き上げ自動巻き上げ式、1コマ撮影・連続撮影〔約1.3秒／コマ〕
巻き戻しフィルム終了時自動巻き戻し式（巻き戻し時間：24枚撮りフィルムで約20秒）巻き戻し終了時自動停止、途中巻き戻し可能
撮影枚数自動復元順算式、巻き戻しに連動（減算）
外部表示表示パネルにLCD表示
レンズペンタックス35~70mmF4.3~8.0電動ズームレンズ 7群8枚 画角63° ~34.5°
ピント合わせ赤外線アクティブライトフォーカス方式、フォーカスロック付き、測距範囲=0.6m~∞
（最大倍率約1/7.5X）、遠景撮影モード付き ピントは無限遠に固定
ズーミング電動式
シャッタープログラムAE電子式シャッター=約1/400~1/5秒、バルブ=1/2秒以上、電磁レリーズ式
セルフタイマー電子式赤ランプ表示、作動時間約10秒、作動後の解除可能、ダブルセルフタイマー機能により2コマ連続撮影可能、オートワイドセルフタイマー撮影により2コマ目をワイド端で撮影可能
ファインダーアルバダ式ライトフレーム付きズームファインダー、視野率83%、倍率0.37×[35mm側] 0.65×[70mm側] 視度-1D[ディオプトリー] オートフォーカスフレーム、視野枠、近距離視野補正枠、パノラマ視野枠 ファインダー右横[ランプ表示] 緑ランプ点灯：撮影可能、点滅：近距離警告 ファインダー左横[ランプ表示] 赤ランプ点灯：ストロボ発光、点滅：ストロボ充電中

露出 プログラム式自動露出
露出連動範囲 (ISO100) オート、日中シンクロ時=EV10~EV17[35mm側] EV11.5~EV17[70mm側] 低速シャッター、インターバル撮影時=EV6.5~17[35mm側] EV8~17[70mm側]
逆光補正 +1.5EV補正
多重露出 可能
露出計スイッチ シャッターボタン
ストロボ ズームオートストロボ内蔵[赤目軽減機能付き]、オート=低輝度自動発光、ストロボON=N=日中シンクロ/低速シンクロ[1/5秒まで使用可能]、ストロボOFF=低速シャッターバルブ、バルブシンクロ=1/2秒以上
ストロボ撮影範囲 (ISO100使用時) 広角(35mm)=0.6m~4.3m、望遠(70mm)=0.6m~2.7m
ストロボ充電時間 約5秒 [当社試験条件による]
インターバル 電子制御式 スタートはシャッターボタン 設定時間[3分、60分]
電源 3Vリチウム電池(CR123A相当品) 1本使用
撮影可能本数 24枚撮りフィルム使用時 約15本 (ストロボ50%使用、当社試験条件による)
電池消耗警告 表示パネルに が点灯、点滅時シャッターロック
データ機構 クォーツ制御・液晶表示式デジタル時計、オートカレンダー (西暦2019年まで、閏年は自動修正)
データ写し込み方法 フィルム背面からの写し込み
データの種類 ①年・月・日 ②日・時・分 ③--- (データ写し込み無し)
④月・日・年 ⑤日・月・年
大きさ・重さ 122(幅)×66(高さ)×40.5(厚み)mm 240g (電池別)
付属品 ストラップ、ソフトケース、パノラマアダプターB

各部の名称



- ⑫ 赤ランプ表示
- ⑬ ファインダー接眼窓
- ⑭ 緑ランプ表示
- ⑮ 電源スイッチ
- ⑯ フィルム情報窓
- ⑰ 裏ぶた開放レバー
- ⑯ 電池ぶた
- ⑲ 三脚ネジ穴

アフターサービスについて

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などをを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。不良見本のフィルムやプリント、また故障内容の正確なメモを添付していただけないと原因分析に役立ちます。



2. 保証期間中（ご購入後1年間）は保証書（販売店印および購入年月日が記入されているもの）をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社各サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。運賃諸掛りについてもお客様にご負担願います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。したがって本期間に中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありまので当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 海外旅行をなさる場合、各サービス窓口でお手持ちの保証書と交換に国際保証書を発行しております。（保証期間中のみ有効）

43



旭光学工業株式会社

〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号

旭光学商事株式会社

〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号

●お問い合わせは次の各サービス窓口へ

ペンタックスフォーラム	〒163-04 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号 新宿三井ビル(私費)	☎ 03(3348)2941(代)
ペンタックスフォーラム・大阪	〒542 大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎ 06(271)3960
東京サービスセンター	〒104 東京都中央区銀座西8丁目10番地	☎ 03(3571)5621(代)
札幌サービスセンター	〒060 札幌市中央区大通西8丁目1番地1号 朝日生命札幌大通ビル	☎ 011(241)8742(代)
仙台サービスセンター	〒980 仙台市青葉区中央2丁目2番10号 仙都会館	☎ 022(261)5681(代)
新潟サービスセンター	〒951 新潟市本町通七番町1153番地 日本信販新潟ビル	☎ 025(224)8391(代)
横浜サービスセンター	〒231 横浜市中区不老町1丁目6番9号 横浜エフセントラービル	☎ 045(681)8711(代)
静岡サービスセンター	〒420 静岡市伝馬町24番2号 住友建設ビル	☎ 054(255)6308(代)
名古屋サービスセンター	〒481 名古屋市東区豪1丁目19番8号	☎ 052(962)5331(代)
金沢サービスセンター	〒920 金沢市尾張町2丁目8番23号 太陽生命ビル	☎ 076(220)501(代)
大阪サービスセンター	〒542 大阪市中央区南船場1丁目17番9号	☎ 06(271)7996(代)
広島サービスセンター	〒730 広島市中区大手町3丁目7番2号 大東京火災広島ビル	☎ 082(248)4321(代)
福岡サービスセンター	〒810 福岡市博多区中州中島町3番8号	☎ 092(281)6868(代)
●消費者相談室	〒104 東京都中央区銀座西8丁目10番地	☎ 03(3572)6479

*日曜・祝日および土曜日は原則として休みます。ただし、年末年始を除きペンタックスフォーラム(新宿)は年中無休、
ペンタックスフォーラム・大阪は日曜・祝日を休みます。